

施工説明書

内装品番

ワイヤレスモニター付
テレビドアホン

電源コード式

ワイヤレスモニター付
テレビドアホン

VL-SWD220K

カメラ玄関子機とモニター親機の
設置工事用

カメラ玄関子機
〈ドアホン〉

モニター親機
〈ドアホン親機〉

VL-V566

VL-MWD220

施工をされる方へ

■ 施工説明書をよくお読みの上、正しく安全に施工してください。特に「安全上のご注意」は、**施工前に必ずお読みください**。施工説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

■ 電源配線工事には、電気工事士の資格が必要です。

■ 電源プラグキャップおよび包装材料は、商品を取り出したあと適切に処理をしてください。

■ 施工終了後は、必ず本書をお客様にお渡しください。

■ 本書では、カメラ玄関子機を「ドアホン」、モニター親機を「ドアホン親機」と表記しています。

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

注意

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

警告

火災・感電・漏電などを防ぐために

禁止

■ 分解・修理・改造しない
→ 修理は販売店にご相談ください。

■ 雷のときは配線工事をしない

■ 指定以外の機器は接続しない

■ 指定以外の端子に電源(AC100 V)を接続しない

■ コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、AC100 V以外での使用はしない
(たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります)

■ 電源(AC100 V)を入れたまま配線工事をしない

■ ドアホン親機は水や薬品のかかる場所、湿気やほこりの多いところに設置しない

■ 電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない

- 傷つける、加工する、熱器具に近づける、コードに過度なストレスを加える(無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねるなど)

(傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります)
→ 修理は販売店にご相談ください。

■ AC100 Vの電源直結工事は資格を持つ者が行う
→ 電源配線工事には電気工事士の資格が必要です。販売店へご相談ください。

■ チャイム線など既設の配線を利用する場合は、AC100 Vが通電されていないことを確認する
→ 販売店へご相談ください。

事故やけがなどを防ぐために

■ 医療機器の近くでの設置や使用をしない*
・手術室、集中治療室、CCU(冠動脈疾患監視病室の略称)などには持ち込まない

■ 自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで設置や使用をしない*
(*本機からの電波が医療機器や自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります)

パナソニック株式会社 コミュニケーションプロダクツ事業部

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号

© Panasonic Corporation 2017



PNQW5049ZA NO117MTO

Printed in Vietnam

安全上のご注意

必ずお守りください

注意

感電などを防ぐために

禁止

■ 土中埋設配線する場合は、土中での接続はしない
(絶縁劣化により、感電の原因になることがあります)

注意

■ 土中埋設配線する場合は、保護管を使用する

■ 屋外配線する場合は、雷サージ保護のため、避雷器を取り付けるか、保護管を使用して埋設配線する

けがなどを防ぐために

注意

■ 落下しないようにしっかりと取り付け
(落下により、破損やけがの原因になることがあります)
→ 石膏ボード、ALC(軽量気泡コンクリート)、コンクリートブロック、厚さ18 mm以下のベニヤ板など、強度の弱い壁は避け、指定の方法で取り付けてください。

付属品の確認

ご確認のうえ、不備な点がございましたら、お買い上げの販売店へお申し付けください。

ドアホン用

ドアホン親機用

木ねじ(2個)
(3.8 mm × 20 mm)

小ねじ(2個)
(4 mm × 25 mm)

● ドアホンの包装袋に添付しています。

壁掛け金具(1個)

壁掛け用木ねじ(2個)
(4 mm × 16 mm)

壁掛け用小ねじ(2個)
(4 mm × 25 mm)

● ドアホン親機の背面にあります。

● 壁の材質によって付属のねじが使えない場合は、材質に合わせて市販のアンカーなどをご使用ください。

設置上のお願い

設置場所について

こんなところには設置しない (故障や動作障害などの原因になります)

〈ドアホン・ドアホン親機共通〉

- 振動、衝撃のあるところ
- 反響の多いところ
- 硫化水素、アンモニア、硫黄、ほこり、有毒ガスなどの発生するところ

〈ドアホン親機〉

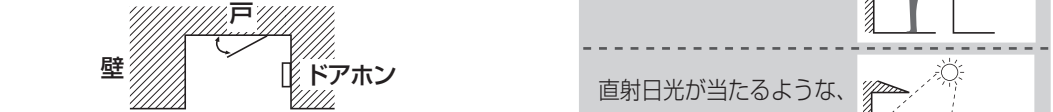
- 火気・熱器具・冷暖房機の近くや直射日光の当たるところ(誤動作・変形・故障の原因)
- 温度変化が激しいところ(結露による誤動作の原因)
- テレビ、ラジオ、パソコンなどのOA機器、エアコン、給湯器リモコン(インターホン機能付き)、ホームセキュリティ関連装置の近く(故障や動作障害などの原因)
- CSデジタル放送受信機器(チューナー、チューナー内蔵のデジタルテレビ、レコーダーなど)の近く(CSデジタル放送の画像が乱れる原因)
- 受信機器から離して設置しても、特定チャンネルの画像が乱れる場合(取扱説明書43ページ)

ドアホンの設置について

● 底面の水抜き穴をふさいだり、北向きに設置すると結露しやすくなります。
・ドアホン周囲の温度差によって、ドアホンのレンズカバーが結露し、映像が見えにくくなる場合がありますが、故障ではありません。
・断熱材(発泡スチロールなど)を用いて、壁の穴を埋めるか、壁と玄関子機の間に挟むと結露しにくくなります。

● 逆光になる場所への設置は避けてください。
(来訪者の顔が暗く映り、識別しにくくなります)

● 下図のように反響の多い場所では、「ピー」という音(ハウリング)が生じることがあります。



● ドアホンの防水性はIPX3*です。
※鉛直から両側に60度までの角度で噴霧した水によっても有害な影響を及ぼさないレベル

● 背面に水などが直接かからないようにしてください。

設置上のお願い(つづき)

設置場所について(つづき)

ドアホン親機の設置について

- 本体の上下左右に20 cm以上の空間をとってください。
(誤動作や通話の途切れ、他の機器への電波干渉防止)
- 壁を深くくぼませたスペースへの設置はできるだけ避けてください。(誤動作や通話の途切れ防止)
- 本体を埋め込まないでください。
- ドアホンから5 m以上離してください。(ハウリングなどの通話障害や通話の途切れ防止)
- その他
 - ・本機は、1.9 GHz(ギガヘルツ)の周波数帯の電波を利用しています。電波についてのご注意など、取扱説明書8ページもよくお読みください。
 - ・携帯電話の基地局やテレビ局の近くなど、強電界地域や電波を発する無線局周辺では、映像や音声にノイズなどが入ることがあります。

工事について

- 電源について：必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続する。
(1) 電源コンセントの近くに設置し、遮断装置(電源プラグ)に容易に手が届くこと。
(2) 3 mm以上の接点距離を有し、容易にアクセス可能な分電盤のブレーカーに接続する。
ブレーカーは保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。
- 既存または新設のドアホン配線などを接続する場合は、接続工事の前に、必ず大地アースと配線との絶縁抵抗、配線2線間の絶縁抵抗、および配線の線路抵抗値(直流ループ抵抗)を測定のうえ、下記の抵抗値と照合し、異常のないことを確認してから接続工事を行う。

絶縁抵抗値	DC500 Vにて1 MΩ 以上
線路抵抗値	直流抵抗計にてループ抵抗 10 Ω 以内(配線距離 100 m 以内で)

- 本機は電気設備技術基準による施工を行う。
 - ・使用する埋込みボックスに、堅牢な隔壁(電源線とその他の信号配線材の間)を設ける。
 - ・金属ボックスを使用する場合はD種接地を行う。
 - ・配線材はAC600 V以上の絶縁電線を使用する。
- ノイズ障害が考えられる場合は、金属配管の中に接続線を通して工事を行う。
(金属管は必ず大地アースをすること)
- AC100 V以上の電力線(電灯線)とは1 m以上離して配線工事するか、別々の金属管による配管工事を行う。(映像の乱れや通話ノイズなどの防止)
- ドアホン親機の信号線接続端子は、連結端子になっているため以下の方法での結線を行う。
(接続できる線種などについては、「線種と配線距離について」)

<ドアホン親機背面>

端子

ボタン

配線材を挿入する場合

- ・配線材の被ふくを9 mmむく。
- ・ドライバーの先などでボタンを押しながら配線材を確実に端子に挿入する。

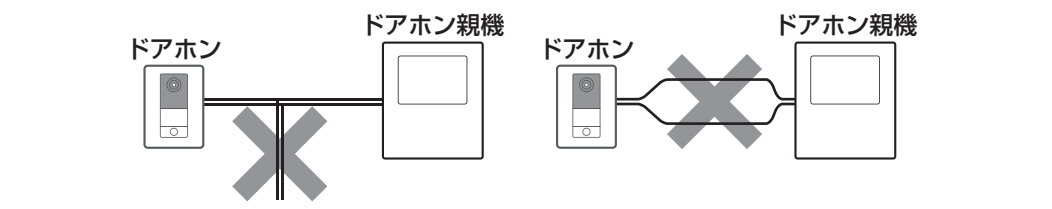
配線材を抜く場合

- ・ドライバーの先などでボタンを押しながら配線材を引き抜く。

● 誤配線、ショートなどがないことを確認後、ドアホン親機の電源を入れる。

既設(チャイム/ベル/プザー/テレビドアホン/音声ドアホン)の配線を使用して本機を取り付けるとき

- 既設の配線に電源(AC100 V、24 Vなど)が接続されている可能性があるため、必ず電気工事士の資格を持つ方が工事をしてください。(誤って接続すると故障の原因になります)
- 工事の際は、まず既設配線の電源を切り、配線材の線種と配線距離を確認してから配線してください。
 - 本書の「線種と配線距離について」の内容に合わない場合、正常に動作しないことがあります。
 - ・線種がφ1.2 mmを超える場合は、配線材を取り替える
 - ・線種が「より線」のときは、指定の方法で接続する(裏面「ドアホン親機を取り付ける」手順3)
- ドアホン親機とドアホン間に不要な配線材があるときは、取り除くか新たに配線してください。また、下記のように配線材を分岐したり、極端にばらしたりしないでください。正常に動作しないことがあります。

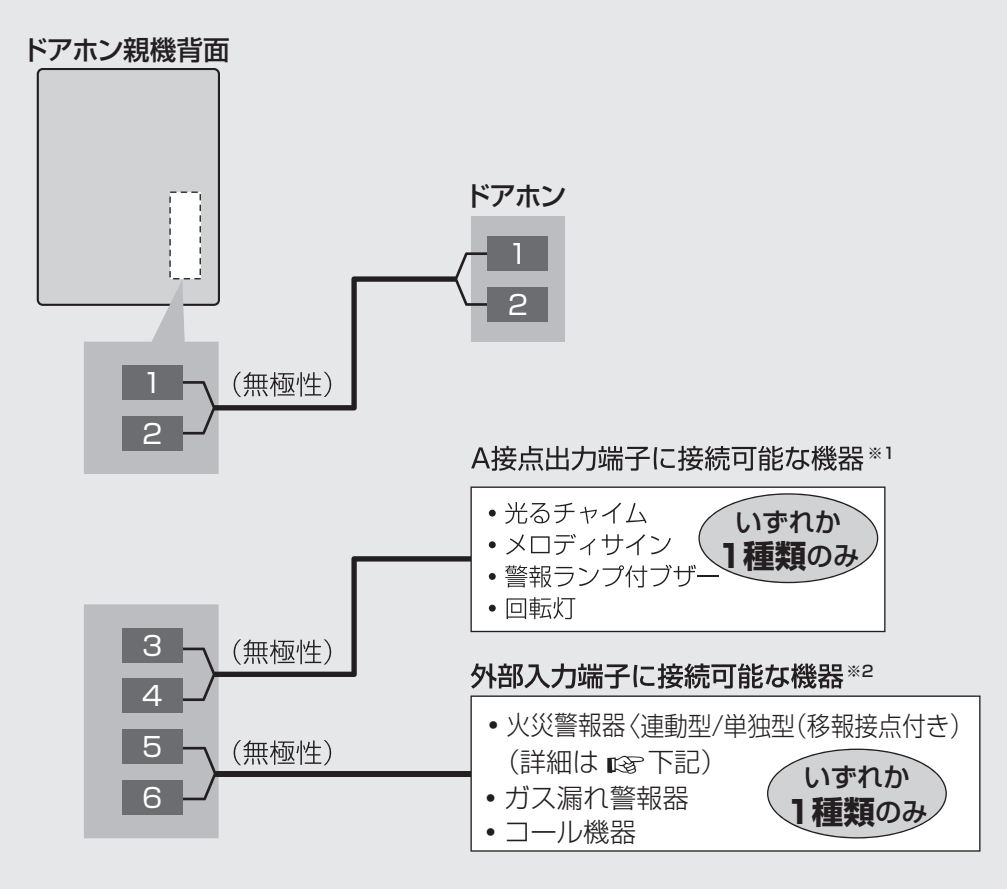


線種と配線距離について (下表の記載以外で使用すると、動作不良の原因になります)

配線区間	線 種	配線距離
ドアホン親機 ～ ドアホン	インターホン用平行 2 線式ケーブル 単芯線(mm)：φ0.65 ～ φ0.9	100 m 以内
ドアホン親機 ～ A 接点出力端子に接続可能な機器	ドアホン親機接続端子の許容線種 単芯線(mm)：φ0.65 ～ φ0.9	接続する機器の仕様に従う
ドアホン親機 ～ 外部入力端子に接続可能な機器		50 m 以内

配線系統図

この配線系統図および「線種と配線距離について」に従って正しく配線してください。
● 接続できる機器の詳細(品番など)は、取扱説明書40ページをお読みください。



■ 火災警報器を接続するとき(火災警報器のタイプによって接続方法が異なります)

連動型の場合：移報接点アダプタが必要です

最大14台まで

移動型(子器) ... 移動型(親器)

赤 ... 青

SH2890K

5 外部 ... 6 入力

● ドアホン親機に直接、連動型の火災警報器を接続しないでください。(故障の原因)

● 移報接点アダプタとの配線時は、線の色を間違えないでください。(故障の原因)

単独型(移報接点付き)の場合

単独型

並列接続で

最大15台まで

5 外部 ... 6 入力

● 単独型を複数台接続する場合も、外部入力端子への入線は、1 端子あたり 1 本にしてください。

※1 ● 下記の定格に適応した機器を接続してください。並列接続はできません。
(故障の原因になります)
・定格負荷：AC、DC 24 V / 0.3 A 以下 ・最小適用負荷：DC 5 V / 1 mA

● 接続した機器の動作については、本機の取扱説明書(28ページ)および接続機器の説明書をお読みください。

※2 ● 下記の定格に適応した機器を接続してください。
・入力方式：無電圧メーク接点 ・端子間開放電圧：DC 7 V以下
・検出確定時間：0.1秒以上 ・接点抵抗値：メーク時 500 Ω以下
・端子間短絡電流：5 mA以下 ブレーク時 15 kΩ以上

● 接続した機器をご使用になるには、接続機器の種別に合わせて「外部入力」設定の変更が必要です。(取扱説明書33ページ)

● 火災警報器などの警報器は、A接点/B接点のどちらの接点種別でも接続いただけますが、上記の「外部入力」設定で接点種別の設定も必要です。

※3 ● ワイヤレス連動型の移報接点アダプタ[SH3290K]を接続することもできます。
・ドアホン親機と[SH3290K]間是有線接続です。
・[SH3290K]と、ワイヤレス連動型の火災警報器間は無線で連動します。
・[SH3290K]と火災警報器は、ドアホン親機からそれぞれ1 m以上離して設置してください。
(近接すると、移報接点アダプタと火災警報器間の電波到達距離が短くなる場合があります)
・その他の詳細は、「[SH3290K]の説明書をお読みください。

